

私立大学研究ブランディング事業

令和元年度の進捗状況

学校法人番号	231030	学校法人名	足立学園		
大学名	愛知文教女子短期大学				
事業名	「食物アレルギーの子どもを守る大学」へー保育所における職種間連携を含む食物アレルギー教育推進事業ー				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	510人
参画組織	生活文化学科食物栄養専攻、幼児教育学科第1部および第3部、ブランディング事業委員会、SD委員会、FD・学術研究委員会、広報委員会、研究ブランディングプロジェクトチーム				
事業概要	<p>本学は保育士と栄養士の養成施設である。本事業では保育所での食物アレルギー事故防止の視点から、保育士と給食担当者(栄養士等)への職種間連携を含む「食物アレルギー教育」内容と教授法を研究により明らかにする。これは校祖足立閻励の「真心を通わせることで「信用」「信頼」が生まれる」という信念を象徴していることから、「食物アレルギーの子どもを守る人を育成する」という本学のブランド確立に向け全学的に推進する。</p>				
①事業目的	<p>【社会的ニーズ】アレルギー疾患を有する子どもの増加に伴い、保育所での対応が求められているが、食物アレルギーに関しては「誤配・誤食」事故が起きているのが実情である。理由として保育室と給食室間のコミュニケーション不足が考えられ、ガイドラインの徹底とともに「事故防止」のためには、保育士と給食担当者の食物アレルギーへの正しい理解と連携が不可欠である。</p> <p>【研究ニーズ】食物アレルギー教育が保育士および栄養士養成施設においてどの程度実施されているかは明らかになっておらず、「専門職種連携」に関しても保育分野で求められる協働の在り方や方法、教育方法などは研究されていない。</p> <p>【自大学と研究テーマの関連性】本学は同キャンパス内で保育士と栄養士の専門職人材を養成し、社会に輩出しているが、ここに教育・研究のフィールドがある。食物アレルギー教育に関しては平成15年より学内で開催している、食物アレルギー対応クリスマスパーティ「みんないっしょのクリスマス」が基盤となっており、幼児教育学科においても平成26年から「乳幼児食物アレルギー演習」を導入、学生の教育成果に関する研究を学会等で報告している。本事業の推進により、「食物アレルギー教育」を発展させ、保育士および栄養士養成施設における教育の充実と発展に寄与し、保育所における食物アレルギー事故減少に貢献できる。</p> <p>保育士と給食担当者の有機的な職種間連携を含む「食物アレルギー教育」の内容と教授法を開発することで、これをリカレント教育や一般市民への生涯学習としても展開する。本学独自のこの事業を通して「食物アレルギーの子どもを守る」人材を育成する大学として「食物アレルギー教育」の拠点となることを目指すものである。</p>				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】ブランディング事業委員会は、事業の1年短縮を踏まえ、成果報告書を作成する。研究部門統括会議は、リカレント教育、栄養士・保育士養成施設教育としての「食物アレルギー教育」の実施及び効果測定と生涯学習への展開を進める。また、これまでの活動の成果物としての書籍発行に向けた準備を行う。そしてこの事業を発展的に継続する「子どものアレルギー・食育研究会」を発足させるための準備を行う。</p> <p>【実施計画】ブランディング事業委員会は外部評価を受け、4年間の成果報告書を作成する。養成施設チームは食物アレルギー教育効果を学習到達度テスト・ルーブリック評価で測定する。養成施設チームと保育所チームは協働で「食物アレルギーワークブック」の改訂版を作成し、保育士等の研修会で活用する。また、調査、研究成果は学術学会等で発表・論文化する。食物アレルギー教育研究トレーニングルームを活用したリカレント教育(学外、一般市民対象)を行う。</p>				

③令和元年度の事業成果

【教育・研究】
 保育所での食物アレルギー対応における保育者の専門性に関する研究を行った。研究対象園の協力のもと、給食時の対応を観察し、職員との面談を行うことで、安全でより良い給食提供の実現と保育者の専門性との関連を探ることができた(6月から9月)。
 平成29年度に本学近郊自治体における研修会で実施した保育士対象のアンケート調査を分析し、現職保育者が栄養士養成に期待する食物アレルギー教育内容の検討を行い、この成果を学術学会等で発表することで、栄養士養成を行う他大学の学会参加教員と交流し情報交換を行うことができた(9月)。アレルギーを含む給食を調理する施設における残留量を実測する研究を進め、その結果を国際フォーラムにて発表(12月)することで、中国、韓国、台湾の各国の研究者から研究に関する好評価と今後の研究発展への助言を得ることができた。
 (一社)愛知県現任保育士研修運営協議会からの委託を受け、「令和元年度保育士等キャリアアップ研修」を開催した(8月)。「食育・アレルギー対応」を担当し、講義、実習などを行った。また、昨年度使用した専用テキストを改変し、ワークブックを兼ねたものとするので受講者にも好評であった。昨年度に引き続き、ループブック評価とアレルギー対応に関するアンケート調査を行ったことで、データ数を蓄積し、今後の分析と研究に生かすことができる。事業専用サイト「はっぴーと」内の整備と情報追加を行い、教員の研究内容の公開とその詳細を掲載することにより、本事業の学術的背景を広く外部へ公表することができた。このサイトを通じての食物アレルギー研修会の依頼もあり、事業成果が社会に広がりつつあることを実感できた。
 食物アレルギー対応クリスマスパーティ「みんないっしょのクリスマス2019」を幼児教育学科、生活文化学科の協働型で開催し、60名余の参加者を迎えることができた(12月)。参加者アンケートでは、本学が独自の食物アレルギー教育を行っていることを高く評価するという記述も見られた。また、「文教こどもフェスタ」において食物アレルギー児の保護者対象栄養相談会を開催した(1月)。このように、幼児教育、生活文化の両学科が協働で取り組むイベントの実施により大学全体に「食物アレルギーの子どもを守る大学」という意識が高まっていった。
 全学科の卒業学年学生への食物アレルギー教育効果測定として「到達度テスト」を実施した(2月)。
 支援期間短縮による事業終了年度となることから、これまでの事業の発展形としての「子どものアレルギー・食育研究会」を発足させるための準備を行った(3月)。
【大学ブランディング】
 本学が「食物アレルギーの子どもを守る大学」であることを、より強くアピールし、ブランディングを進める上で大学ホームページのリニューアルが必要と判断し、実行した。トップページにおいては、本学のブランドビジョン「ひとを想う挑戦」を教職員と学生が輪を作る画像で表現し、これまで独立した場所にあった本事業専用サイト「はっぴーと」をここに移動し、アクセスのしやすさを向上させた。また、昨年度完成したブランドビジョンとロゴマークを本学が発信する情報媒体すべてに常に掲載することで、一層のブランディング効果を図った。
 大学紹介動画(CM)を2本(15秒タイプ、30秒タイプ)制作し、インターネットの動画サイト上で公開することで、本学の広報活動を広範化させることができた(3月)。

④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果

(自己点検・評価)
【教育・研究】これまでの本事業における調査研究から得られた結果を分析・考察し、各種学術学会(国際フォーラム含む)で発表したことで、本学の食物アレルギーに関する取り組みを国内の大学関係者のみならず、近隣アジア諸国の研究者にも認知してもらうことができたのは、大きな進歩である。
 昨年度に引き続き「保育士等キャリアアップ研修」を受託したことで専門職における生涯学習への本学の貢献度が高まった。また、専用テキストを改変したことで、事業終了後に発行を予定している栄養士・保育士養成校向けの食物アレルギー教育用教科書の骨子がまとまった。
 支援期間が1年短縮されたことで、申請時に5年目の計画としていた「子どものアレルギー・食育研究会」の発足の準備に取り掛かったが、本来4年目に計画していた内容と並行して行うなど、時間的な制約もあり、年度内の発足は見送り、令和2年度以降の継続事業とした。
【大学ブランディング】大学ホームページリニューアルは、本事業の中で全学を挙げて作成に取り組んだブランドビジョン「ひとを想う挑戦」がページ最上部に表示される構造となっており、本学のイメージ広報に非常に効果的なものとなった。事業専用サイト「はっぴーと」は、これまでレシピ動画やイベント情報が中心となっていたコンテンツを見直し、各教員の研究成果を詳細に掲載したことで、研究ブランディング事業であることを改めてアピールすることができた。

(外部評価)
 本事業の外部評価委員による令和元年度の取り組みについての評価は以下の通りである。
 ・「教育・研究分野」に関して、計画通りに実行されており、評価できる。
 ・「生涯学習・保護者支援」に関しては、講師派遣、出前授業等は評価するが、もっと各地で広く実施できるようにするとよい。
 ・4年間の事業はどの分野も真摯に取り組まれており、敬服いたします。
 ・食物アレルギーは多様になり、ますます深刻な問題になることが予測されることから、ライフステージを通じて全国に愛知文教の業績、取り組みが広がっていくことを願う。
 ・事業全体のPR方法をもっと改善すると、広く世の中に周知されていくのではないかと。
 ・教育効果が測定されているところは良い。
 ・アレルギー対応食のレシピの質が保育園での対応の質の向上につながるので、レシピ開発することは非常に価値がある。
 ・この分野の研究に書籍は必要であり、かつ今までにない視点でまとめられることに価値がある。保育現場をフィールドとして研究を継続していくことは素晴らしいと思う。
 ・現場で働く卒業生の声を、在学生への教育に活かしていく「循環」が貴学ならではの、で良いと思う。
 ・アレルギー対応で安全性を確保するためには保育士と栄養士の連携が欠かせないのでどちらの養成課程も持つ、貴学のプログラムが今後、現場に実践的な知識として普及していくことを願う。

⑤令和元年度の補助金の使用状況

【平成31(令和元)年度私立大学等経常経費補助(特別補助)】
 上記支援のもと、以下の事業に関連した経費を適切に執行した。
 ・各種調査研究費、学術学会における発表等に関わる費用
 ・事業専用インターネットサイトの運用(コンテンツ追加・更新)
 ・食物アレルギー教育研究トレーニングルームの維持・管理
 ・食物アレルギー対応クリスマスパーティ開催会場の整備
 ・大学ホームページリニューアル
 ・学内ICT化促進事業